

やなせ先生による第1次テーマ発表



大笑いまんが道場

イベントも盛りだくさん
ペン見たちの競技だけでなく、やなせたかし先生の「やなせたかしとアンパンマンコンサート」や、審査員のM.O. 念平先生による「大笑いまんが道場」、島本和彦先生による「あしたのジョー完全理解のための島本講座」なども開催され、一般の方々にもまんがに触れてもらえるイベントを開催しています。「大笑いまんが道場」は、M.O. 先生が道場主となりお題を出し、他の審査員のプロの漫画家と地元高校生などが、漫画でもおもしろい回答をしていくのです。地元高校生たちが良い回答を出していく中で、審査員の先生方がさすがプロの漫画

家の先生方（他に牧野圭一先生、島本和彦先生、M.O. 念平先生、ひのもとめぐる先生、くさか里樹先生）に、今年は特別審査員としてちばてつや先生にも加わっていただき、皆さんに高知までお越しいただきました。また、アマチュア漫画家岩神義宏先生、さかもと清敏先生、実行委員会の吉村領会長も審査を行いました。

本選出場の高校生たち（以下「ペン見たち」）も北は北海道、南は鹿児島から灼熱の太陽が降り注ぎ、龍馬ブームで盛り上っている高知へと集結し本選大会に臨みました。

第1次競技開始

午前10時の開会式で第1次競技テーマ「正義の味方」が発表され、10時半に尾崎正直知事が打ち鳴らすドラの音とともに競技が開始となり、各ブースにて作品を仕上げられています。事前に本選大会のテーマ候補5題（使われるのは3題）を各チームには知らせており、それぞれさまざまなアイデアを練ってきていますが、その場で再度練り直しを行うチームもあり、午後4時の競技終了までギリギリの作画が続けられました。作品を描いている中で、審査員の先生方が各校のブースを見て回り、ペン見たちに声を掛け激励をされています。

後5時やなせ審査委員長より決勝進出校が1校ずつ発表されることに、歓声があがります。最後まで選ばれなかった高校は、敗者復活戦のテーマが発表されると、歓声と悲鳴が入り混じった声があがりますが、敗者復活戦へと気持ちを切り替え、決勝戦を目指します。

まんが甲子園とは
高知県では「フクちゃん」の故郷山隆一先生、「アンパンマン」のやなせたかし先生や「毎日かあさん」の西原理恵子先生といった多くの著名な漫画家を輩出していますが、これを単なる偶然としてとらえるのではなく、まんがを高知県の貴重な文化資源として位置づけ、県民にまんが文化を親しんでもらおうと、昭和63年から「まんがフェスティバル」を開催してきました。

「まんがフェスティバル」には、県内の高校の漫画研究部も参加しており、高校生の「自分たちがさらに積極的に参加できるようなイベントにしてほしい。」という声を受け、審査員とペン見たち
審査員は、審査委員長のやなせたかし先生をはじめとするプロの漫画

平成22年8月7日および8日に高知県、「あつたか高知」まんがフェスティバル実行委員会、自治総合センターの主催による「第19回全国高等学校漫画選手権大会（以下まんが甲子園）」を高知市文化プラザ「かるぽーと」にて開催いたしました。

平成4年から「まんが甲子園」を開催しております。全国から予選審査を突破した30校が、高知に集結し3人から5人のチームを組んで、テーマに沿った絵を仕上げ、高校漫画日本一を目指します。

全国から280校の応募

今年全国から予選に280校の応募があり、6月25日に予選審査が行われました。予選テーマは「3D」と「〇〇無料化」。多くのチームが「3D」を選んで応募をしてきました。「幽霊・妖怪」「一休さんのトラ退治」などアイデアが同じような作品が多かったため審査員の先生方も審査するのに「苦労」されていました。絵のレベルは毎年、向上しており、アイデアの良い作品が、本選出場30校に選ばれる決め手になっています。



競技中のペン見達

第19回全国高等学校漫画選手権大会（まんが甲子園）

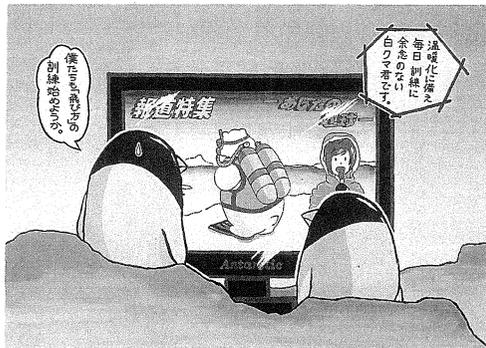
高知県文化生活部まんが・コンテンツ課主幹 中岡祐一



最優秀賞：愛知県立豊明高等学校



第2位：神奈川県立希望ヶ丘高等学校



第3位：栃木県立栃木女子高等学校

退したペン児たちにも思い出が残るものとなっています。

決勝戦開始
敗者復活戦を通過した5校が、本選会場に駆けつけ決勝大会が開始されました。決勝のテーマは「あしたの〇〇」。このテーマは必ず出るだろうと予想していたチームも多く、決勝進出の20校のペン児たちは自分たちこそ最優秀になると思いを込めながら作品を描き上げていきます。

特別審査員のちばてつや先生にちなみ「お題」ということで、「炊飯ジャー」と「あしたのジョー」を掛けた「あしたのジャー」といった作品も見られました。さまざま「あした」が見られる力作ぞろいとなりました。

最優秀賞は
決勝作品の審査では、最優秀をどれにするかで議論が割れ、予定の審査時間を大幅に超過しました。その

結果、最優秀には愛知県立豊明高等学校の作品が選ばれました。この作品はお姉さんが弟に母親のあしたの機嫌を予報するといった「あしたの機嫌予報」。やなせ審査委員長の講評では「子どもがみても大人が見ても一目でわかる。面白い作品」との説明がされました。

第2位には神奈川県立希望ヶ丘高等学校の小説蜘蛛の糸に関連した「あしたのカンダタ」、第3位には栃木県立栃木女子高等学校の地球温暖

化を題材にした「あしたの地球」が選ばれました。
まんが甲子園も来年は第20回の記念大会となります。記念大会にふさわしい熱戦となるよう、全国各地からの沢山の応募をお待ちしています。

スカウトマンシップ制度（出張編集部 今年も、大手出版社の漫画雑誌編集部（6社15誌）が高知へと来られ、本選出場のペン児を対象としたスカウトマンシップ制度へ参加するとともに一般の方を対象とした出張編集部を開設しました。

スカウトマンシップ制度はペン児たちの中から見込みのあるペン児たちを選び漫画雑誌の編集者たちから指導を受けられるもので、漫画家への一歩へつながるものとなっています。今年は22名がスカウトされました。また、出張編集部では漫画家を目指す一般の方々も原稿を持ち込んで見てもらえるので、近隣の県から持込をする人たちも増えており貴重なチャンスの場となっています。

家といった答えで会場を盛り上げてくれました。

また、島本和彦先生による「あしたのジョー」完全理解のための島本講座」では島本先生があしたのジョーへの解説を炎のごとく熱く語り、そこへちばてつや先生が参加されるといった、ファンにはたまらない場面もみられ、会場をおおいに沸かしていました。



商店街での敗者復活戦



表彰式 最優秀

敗者復活戦
一次競技を落ちた15校は、敗者復活戦で深夜0時までに作品を仕上げなければなりません。審査結果後発表されたテーマは「おかえりなさい」。ペン児たちが宿泊先で時間までに仕上げるよう頑張っている中、審査員の島本和彦先生、M.O.、念平先生、ひのもとめぐる先生の3名

が激励に15校の宿泊所を回ります。突然訪れた先生方にペン児たちは喜びの歓声を上げ、それを励みに良い作品を描きあげようと頑張っていました。

翌日の朝には、敗者復活戦の一般投票が高知市の中心商店街の「大橋通り商店街」で開催されました。街行く人たちの投票をいけば多く集

めた作品は、審査の際に1票が加わることになるので、各校とも投票のお願いに声を絞ります。この1票と審査員の先生方の票で作品が選ばれ決勝戦へと進める5校が決定されました。惜しくも敗退した10校のペン児たちにもそれぞれの審査員から作品の講評があり、自分たちの作品の評価が良くわかり勉強にもなり、敗

◆特集◆ ネットワーク社会の激震 変化する創作利用

文化庁提言

平成22年度の重要施策

〔寄稿〕

新しい創作活動の在り方

音楽・映像産業をめぐる構造変化

出版産業の構造変化

違法流通の現状

〔施設紹介〕

「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会」の報告

意志表示システム

著作権教育

◆文化庁「ユース」◆

震が関文化力イベント告知

新公益法人制度における移行申請のお知らせ

文化財の新指定 美術工芸品関係

文化財保存技術2010 文化財を支える伝統の名匠

平成22年度文化芸術創造都市推進事業「創造都市政策セミナー」開催

など

◆連載◆

「鑑」文化番へのいざない

特別展覧会「中国の書画」(京都国立博物館)

自筆の魅力(美術学芸員文化財調査官横内裕)

「文化人の気魂」

坂東三津五郎・歌舞伎俳優

「いきいきユース」

早稲田大学演劇博物館

「子どもの文化体験」

下守屋安積遺言伝承教室(下守屋安積遺言保存会)

「日本の伝統美と技を守る人々」

重要無形文化財「常盤津三味線」保持者・常盤津英寿

「文化交流使の活動報告」

漫遊家・いわせせいじ

「日南市を走る町並み」(伝説蔵書記)

「言葉のQ&A」

「ねぎらい」と「寝め」の問題

「国立大学施設探訪」近代の記憶そして未来へ」

北海道大学の鉄筋コンクリート造黎明期の建築

など

文化庁月報

11月号(通巻506)

平成22年11月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社 ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12
本部 〒136-8575 東京都江東区新木場1-18-11
電話 編集 03-6892-6527
販売 03-6892-6666
フリーコール 0120-953-431
URL: http://gyosei.jp

印刷所—ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円(本体514円)

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
(株)ぎょうせい出版事業部広告担当
電話 03-6892-6589(ダイヤルイン)

2010 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文に再生紙・大豆油インキを使用しております。

編集後記

昨今の急速な経済発展に代表されるように、さまざまな分野において高い潜在力を有する東アジアには、世界の注目が集まり、日本の国際文化交流の相手先としても重要な地域となっております。文化交流を進めるにあたっては、他国との交流を通じて相互に自国の文化を発展させる施策を考えていく必要があります。そのためには、まず文化をキーワードにした相互理解の促進が有効と考えます。

めには、日本の優れた伝統文化を含め、日本文化を総合的に発信することも、東アジア諸国の文化に触れる機会が拡大が必要で、こうした取組を文化庁だけでなく、関係省庁連携のもと進めていくことが重要となります。多様な民族、宗教、言語が存在する東アジア地域では、時折、国家や民族間での衝突が起こりますが、相互理解が図られこの地域が一つになる、その契機となるような文化交流を行っていく必要があると考えます。(H・K)

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等へのチケット

プレゼントは、

- A 東京国立博物館「東大寺大仏 天平の空室」 2組(ペア)
B 京都国立博物館「筆墨精神」 2組(ペア)
C 奈良国立博物館「おん祭と春日信仰の美術」 2組(ペア)
D 東京国立近代美術館「麻生三郎展」 5組(ペア)
E 東京国立近代美術館工芸館「現代の人形」 2組(ペア)
F 国立国際美術館「ウフィツィ美術館自画像コレクション」 2組(ペア)

です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ、11月25日(木)までにご投函ください(当日消印有効)。

*チケット発送をもって当誌発表にかえさせていただきます。

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●

http://www.bunka.go.jp